

第12回JIA環境建築賞
住宅部門応募作品



落日荘

岩崎駿介

落日荘

建物概要

建物名：落日荘

所在地：茨城県石岡市八郷瓦谷3138-4

施主(住い手)・家族構成/夫婦2人：岩崎駿介＋岩崎美佐子

計画＋設計・・・岩崎駿介＋岩崎美佐子

施工・・・・・・・自主施工：岩崎駿介＋岩崎美佐子



■施工分担

現場監督：岩崎駿介

大工棟梁：岩崎美佐子

二人の共同作業工事(岩崎駿介＋岩崎美佐子)

：進入路建設、コンクリート工事、基礎工事、造園工事、ガラス工事

岩崎駿介担当工事

：木工造作工事、電気・給排水・OM設置・板金工事一式

岩崎美佐子担当工事

：木工造作工事、建具・家具工事一式

躯体の木材加工(刻み)：コンピューター入力によるプレカット加工

建前工事：大工職人協力

左官工事：左官職人

瓦工事：瓦職人

障子工事(一部)：建具職人

■構造及び規模

木造二階建＋一部コンクリート造(ハツリ仕上げ)

面積：敷地面積・・・1200坪

建築面積(第一期工事)・・・109㎡

延べ床面積(第一期工事)・・・164㎡

■構造材：柱、梁、垂木など木部構造材＋化粧材はすべて、自然乾燥による杉材

■外部仕上げ

屋根・・・日本瓦(淡路島産焼き締め瓦)

外壁・・・八溝スギ(30mm)、漆喰、複層ガラス、コンクリート内放し

建具・・・木製サッシ(複層ガラス)＋アルミサッシ＋アルミドア

■内部仕上げ

天井・・・籐ジュウタン(インドネシア産)

壁・・・杉板12mm(木頭杉)＋漆喰(一部ジュラク)＋コンクリートハツリ壁

床・・・杉板30mm＋40mm(木頭杉)

＋檜木レンガ(土間入り口)＋タタミ

■設備

暖房・・・OMソーラー(太陽熱＋灯油)＋薪ストーブ

給湯・・・OMソーラー(太陽熱利用＋灯油ボイラー)

冷房・・・なし

給水・・・井戸水(飲料)＋公共水道(風呂・便所など)

排水・・・合併浄化槽浄化後に敷地内吸いこみ式

電気・・・100V30A(住居用)、200V3KW(工作機械用)

設計主旨

地球上の富めるものと貧しきものとの対立、すなわち「南北問題」と、いま私達の目前に迫る「地球環境問題」の解決に努力した30年の経験を踏まえて、終の棲家として「落日荘」を計画し、設計し、自力建設した。落日荘は、「環境建築」であること、つまり「地域環境に調和し、時代を超える持続的な生命力を内に秘めた住まい」であるよう、あらゆる観点から考察し、設計した。

■「環境建築」としての落日荘設計で心掛けたこと

- ・自然との対話が可能(方位と軸線)
- ・時代を超える生命力(デザイン)
- ・材料の選択(地産地消：八溝スギ
 - ・茨城県、栃木県・福島県境の地域木材)
- ・木材を人工乾燥ではなく、1年以上の自然乾燥
- ・断熱性：WOOL(純毛/壁、天井)＋複層ガラス
 - ＋杉床材＋スタイロフォーム(基礎)
- ・湿度調節(天井材ラタンの吸湿性)
- ・化学物質材料を極力不使用(スタイロフォームのみ)
- ・太陽熱などの自然エネルギー有効利用(OMソーラー)
- ・可動式天井障子間仕切り(書斎)
- ・雨水貯水槽
- ・薪ストーブ

■落日荘設計を可能した条件

この土地は、正面の足尾山と北緯36度16分48秒という同じ緯線上にあって、春分秋分にはその頂上に陽が沈むという絶好の位置にある。さらに、西以外の三方は、ナラ・クヌギなどの落葉樹に囲まれ、さらにその外側が穏やかな山に囲まれて、敷地にコの字型の建物を建てれば、結局、三重の囲いに囲まれた中庭を得て、無類の精神的安定の場となると同時に、地球上の小さな一点において、地球をそして宇宙を感じることができる。

■落日荘は自給自足の基地

地球環境と開発途上国の人々に、過大な負担を掛けないようにするために、「自分で食べるものは、できるだけ自分で作ること」を目標として、徒歩圏内の5畝の田んぼにて米を自給し、敷地内において野菜を栽培する。

■落日荘の今後

現在までに完成しているのは、寝食の場である「母屋」であるが、第二期工事として「工作室と農業用納屋」、そして「門と駐車場」の建物を既に着工しており、基礎コンクリートと付帯の庭園部分を現在工事中である。これらが完成すれば、中庭を含む主要部分が完成するが、その後ゲストハウスと露天風呂の建設を予定している。

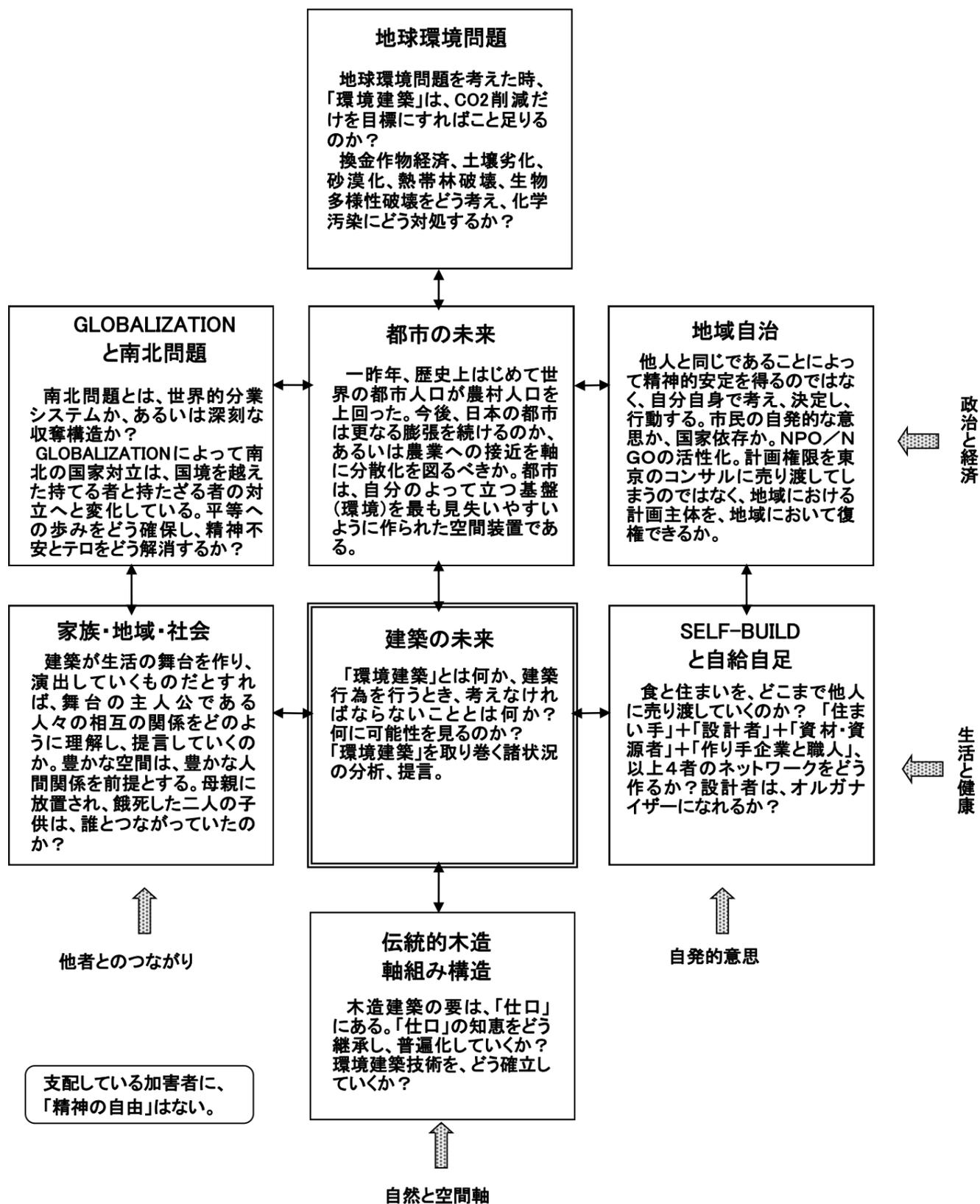
■写真：この応募提出図書で使用した写真は、以下の方々の撮影による：岩為、斎藤さだむ、六反田千恵、上田 明、岩崎美佐子、岩崎駿介

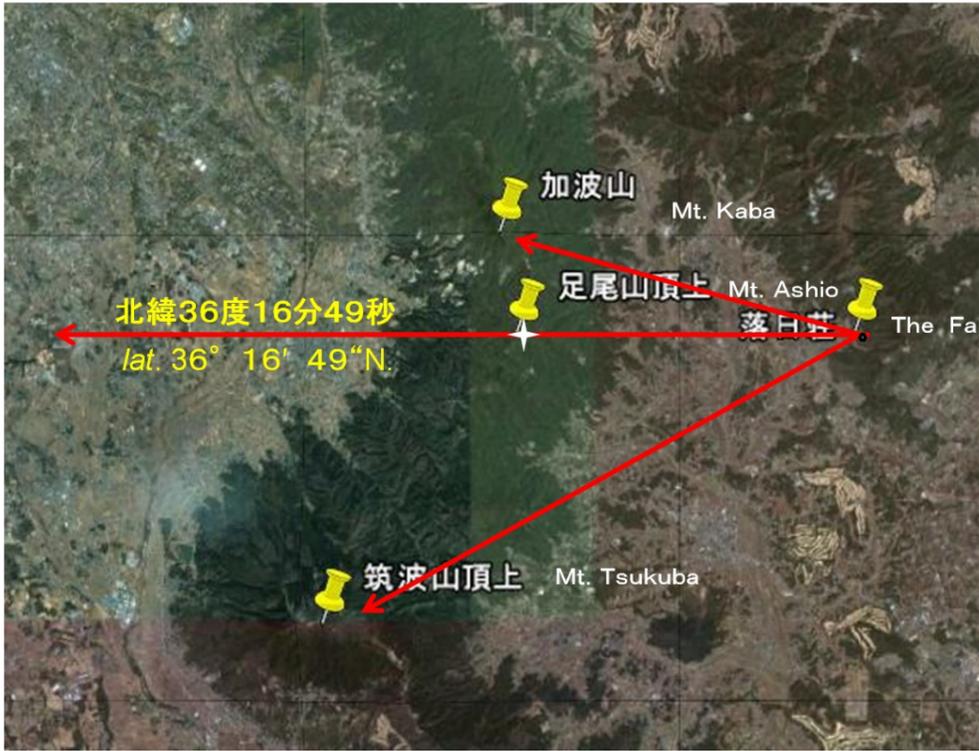


落日の位置

「環境建築」とは何か？

「環境建築」を考える枠組み

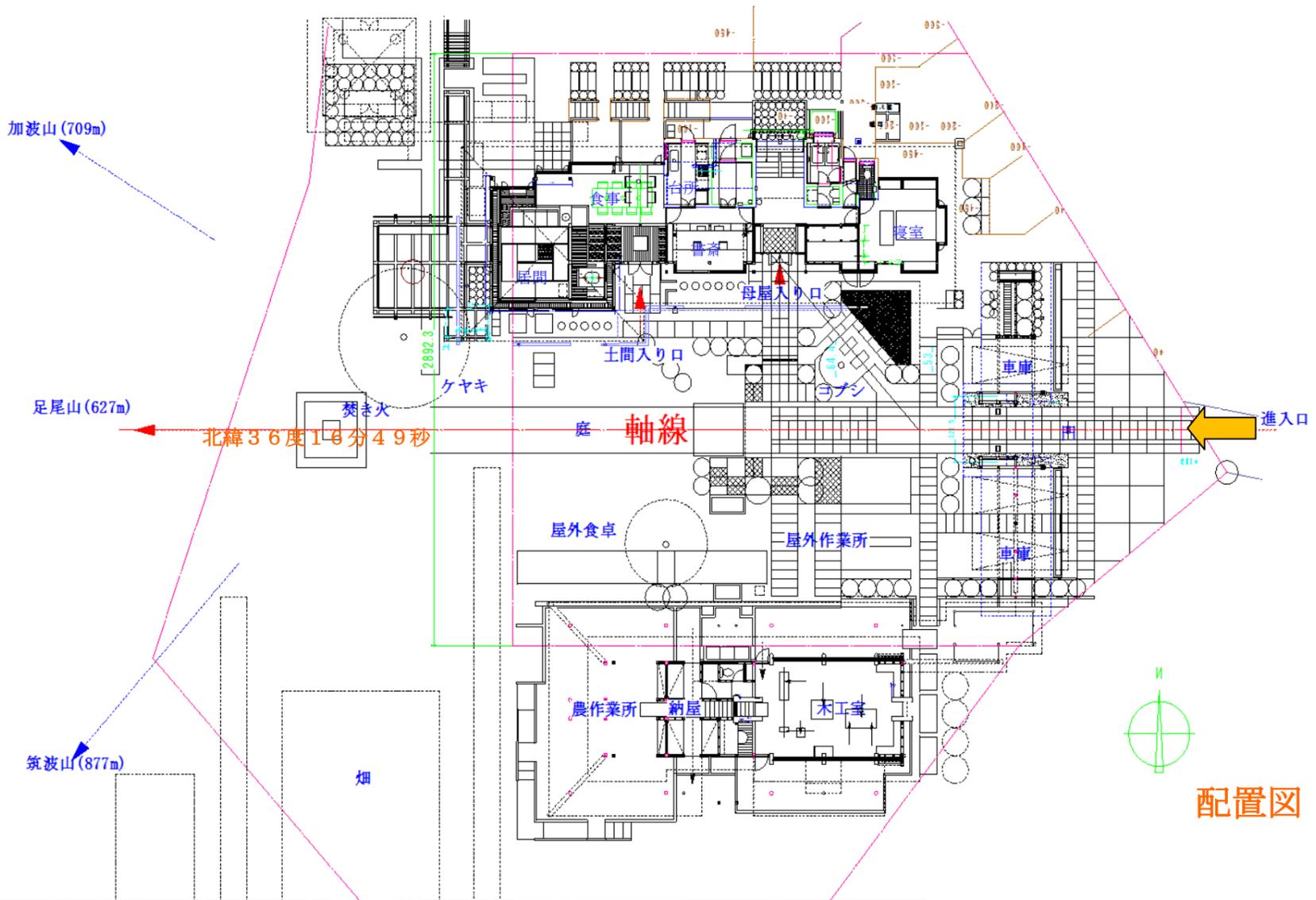




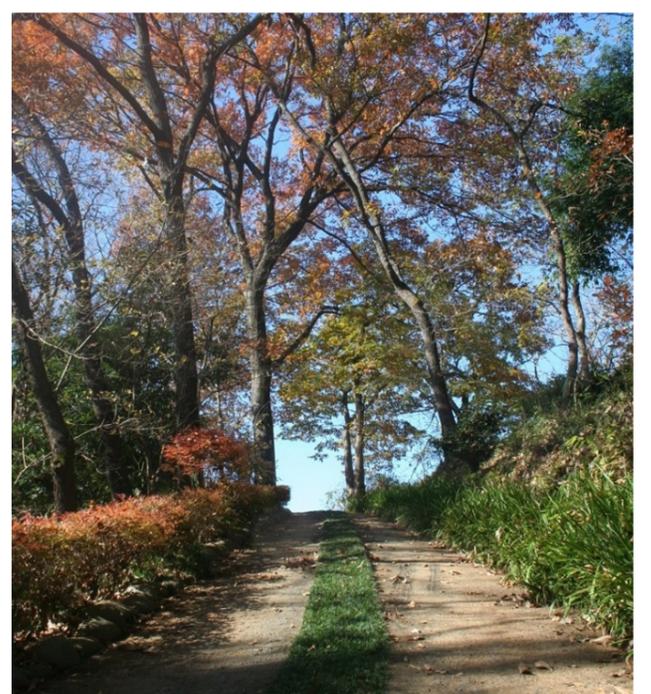
八郷盆地



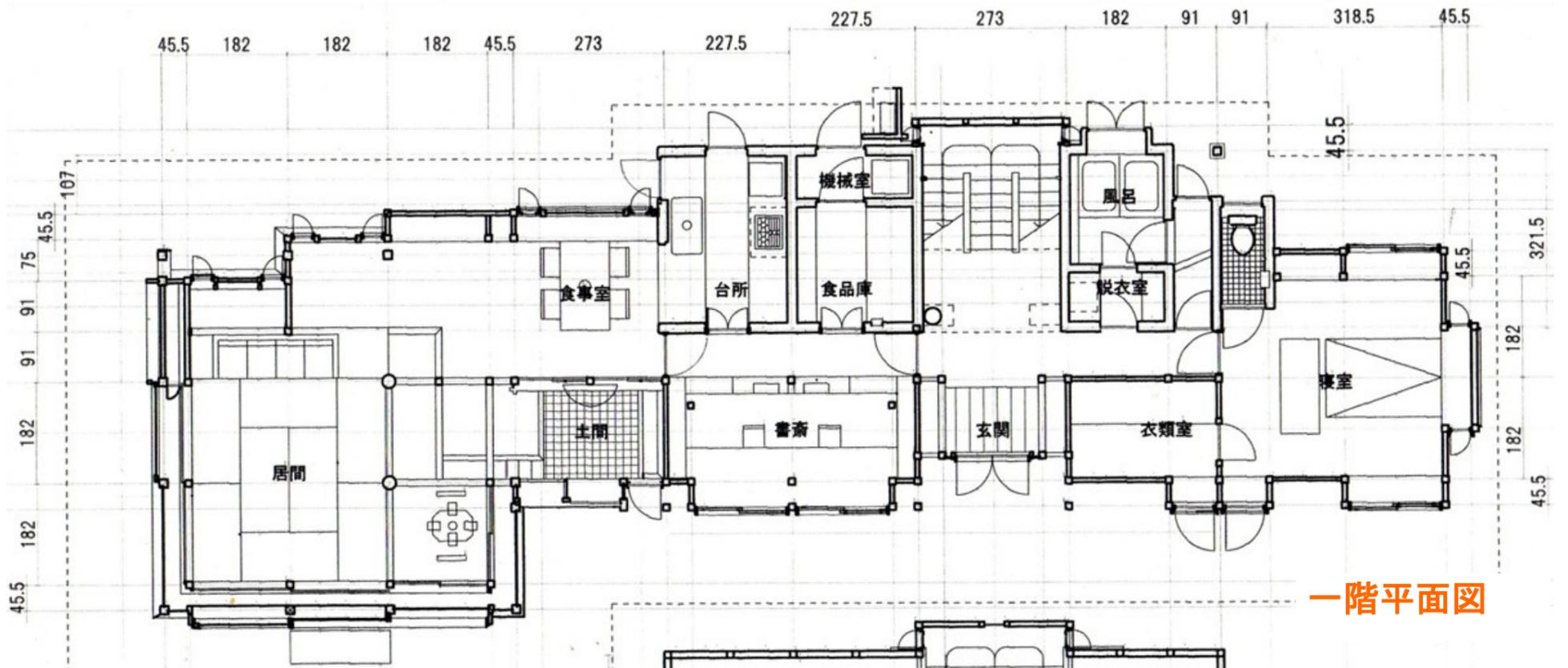
落日荘周辺



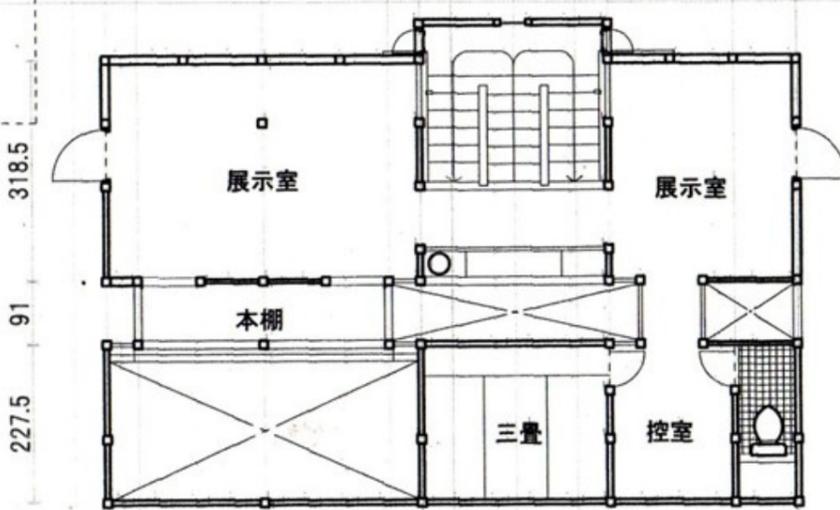
敷地の第一印象(進入口からのVIEW: 木を二本移植したが、落日荘の建物建設以前)



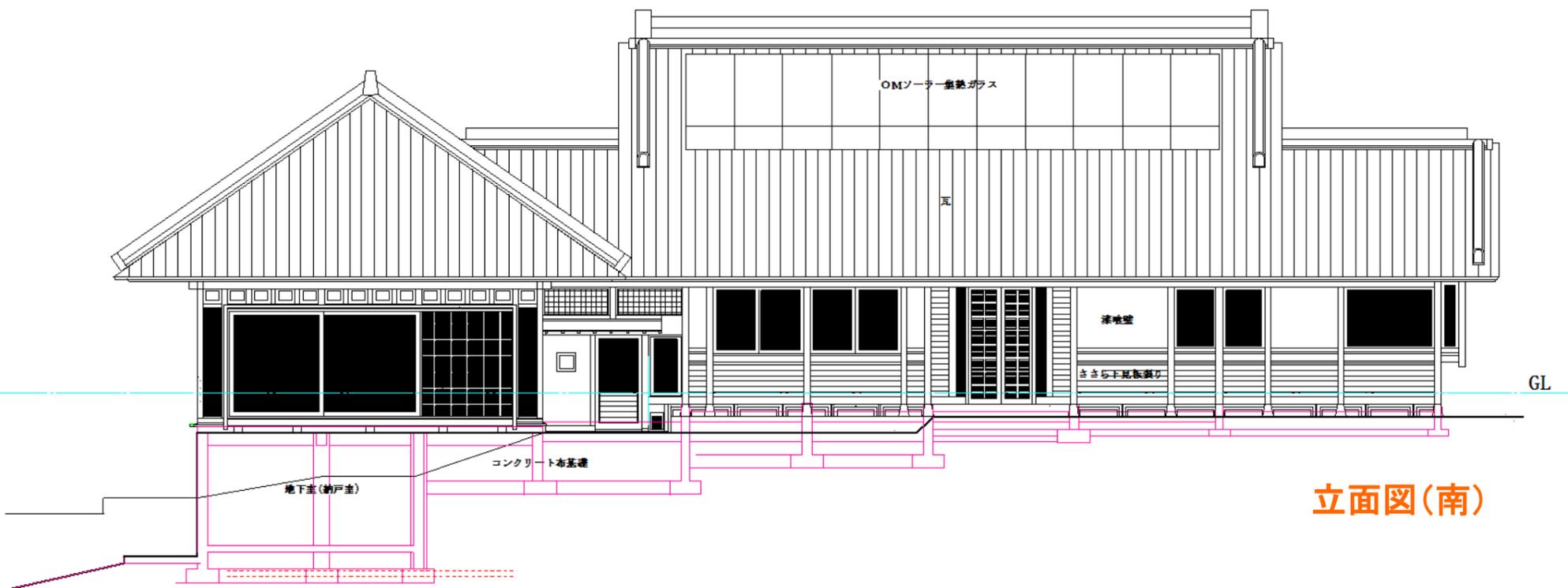
進入口



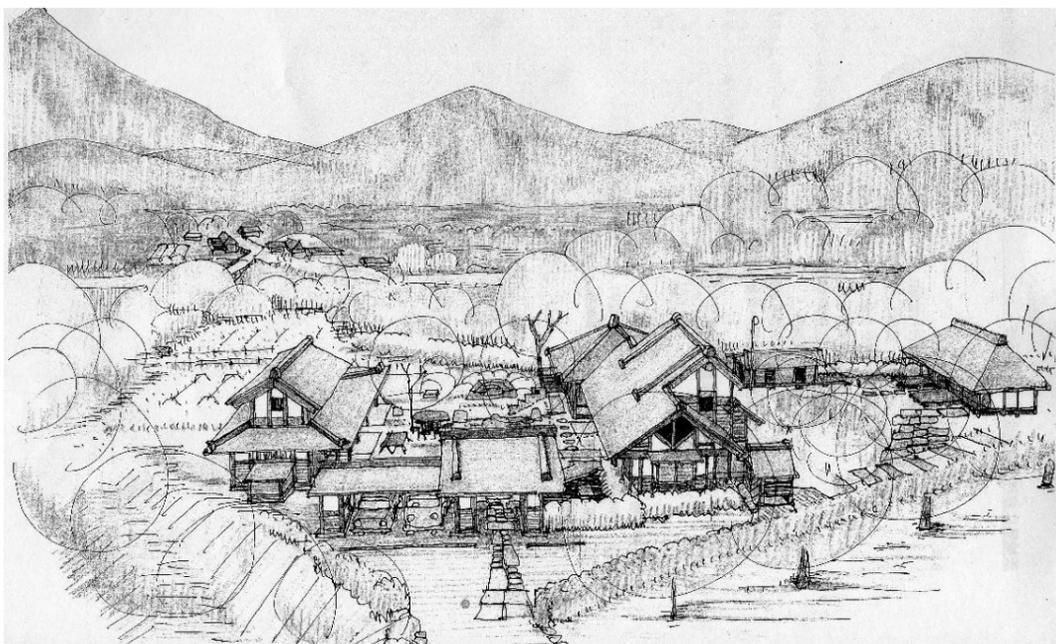
一階平面図



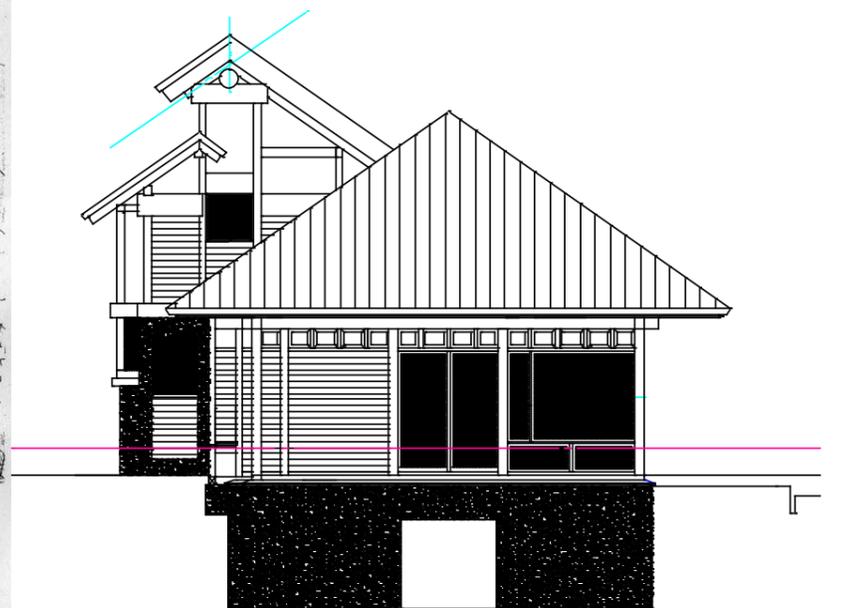
二階平面図



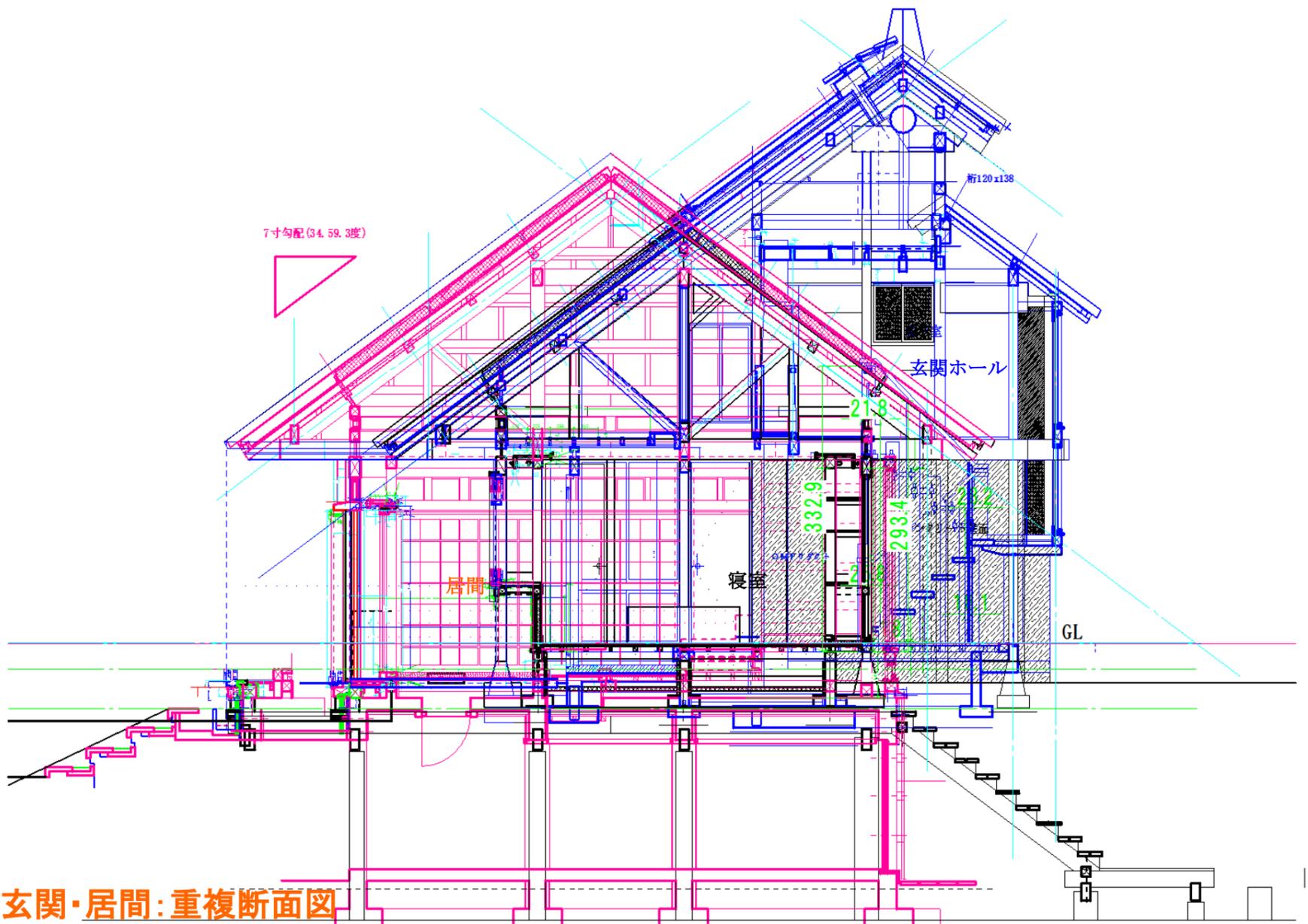
立面図(南)



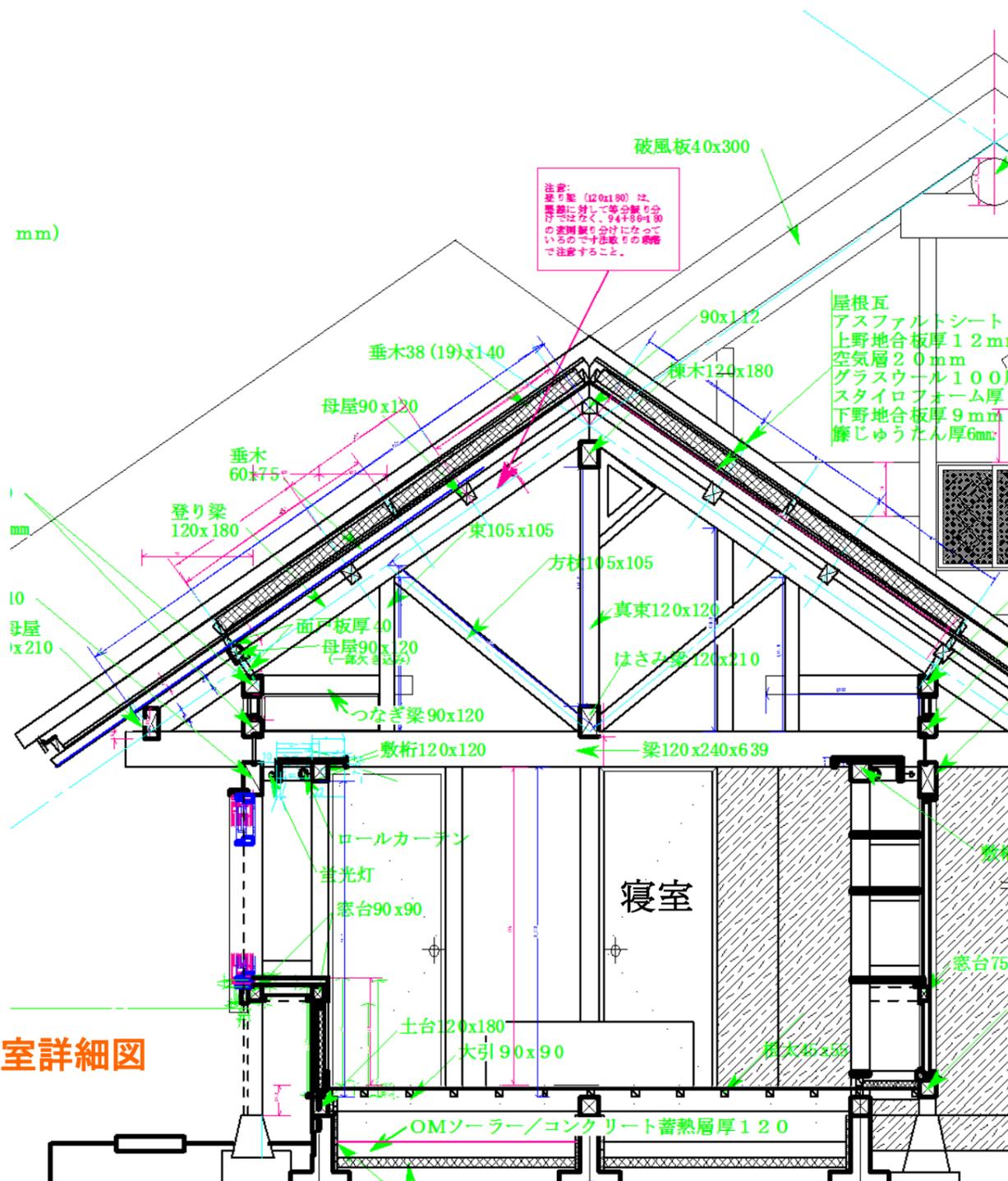
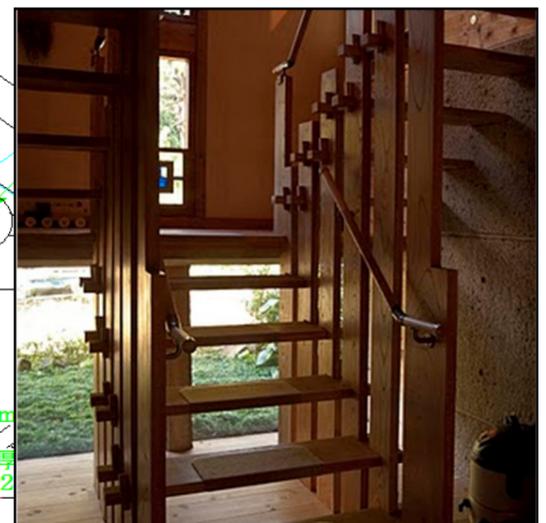
将来計画図



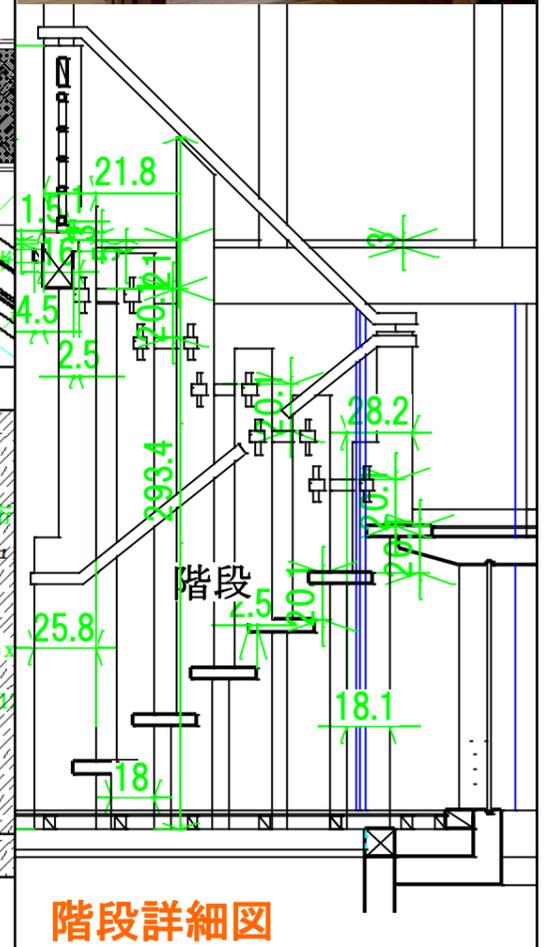
立面図(西)



寝室・玄関・居間:重複断面図



寝室詳細図



階段詳細図





夕暮れ

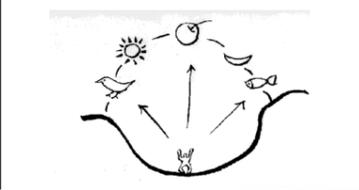


居間

中央の鏡に、真西に位置する足尾山の頂きが映る



建物の表を行く



建物の裏に行く

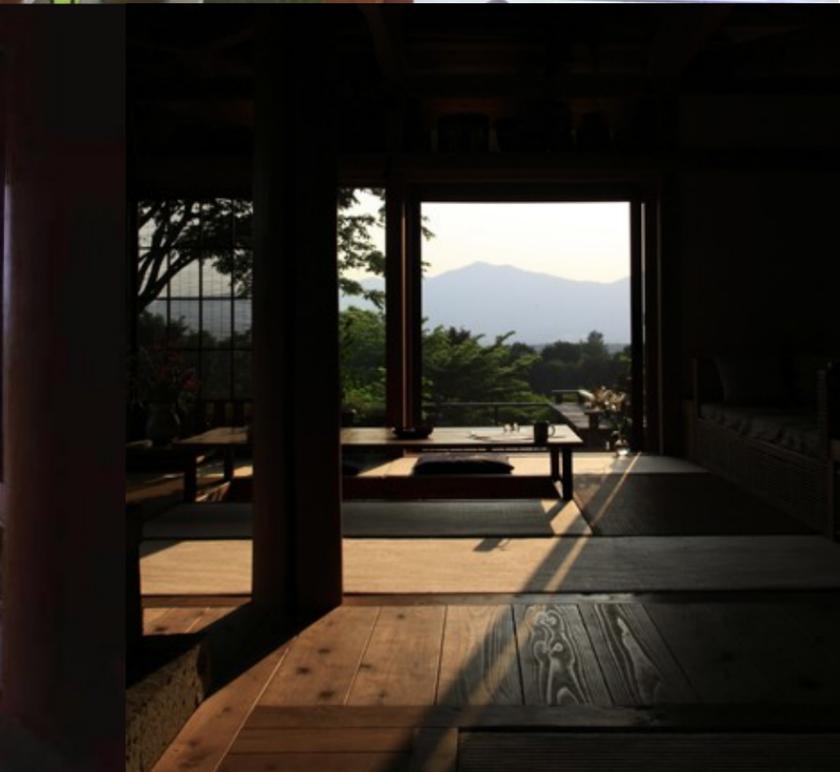


囲炉裏

変化できる

堀コタツ式クッキングテーブル(8人対応)

木の実にモバイルを作る



犬猫の入り口

犬猫の専用出入口と階段

昼の居間



夜の居間



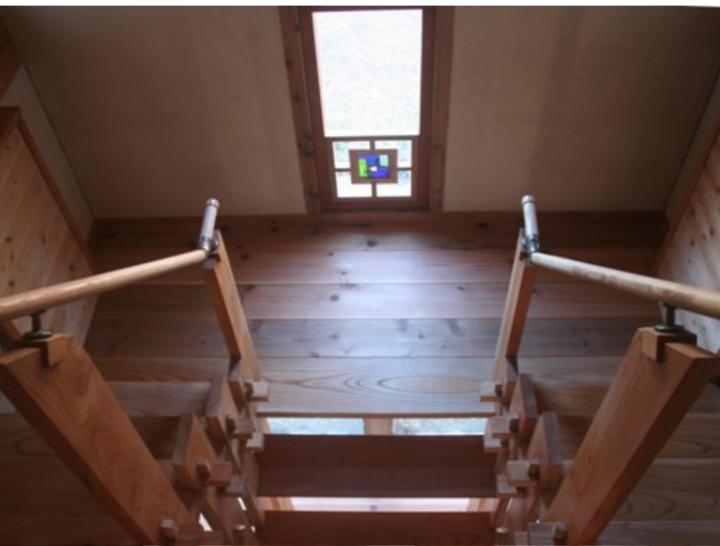
普段、室内でもっとも長く時間を過ごす書斎には、台所や食品庫室の上部へと水平に引き込んで収納できる障子を取り付け、冬、これを引き出し、閉め切ることによって空気容量を小さくし、床から吹き出すOMソーラーの暖気効果を高めることができるが、実際は建物全体内に適度な対流が起こり、いままでその障子利用の必要性があまり感じられない。

薬などに頼らず健康を維持したいと考え、温水冷水の二つの浴槽を設けて、1分間づつ交互に入って血行を良くする。



食事、台所、玄関、書斎、寝室、風呂





階段



二階踊り場・展示室



餅花

しめ飾り

春の日差し

山桜

フキとウド

お雛様

薪ストーブ

冬

春

田植え

秋

夏

彼岸花

萩戸

あじさい

床の間

稲の刈り取り

秋の月

土間のペンダント

朝もや

紅葉

季節はめぐる

樺に群れる玉虫



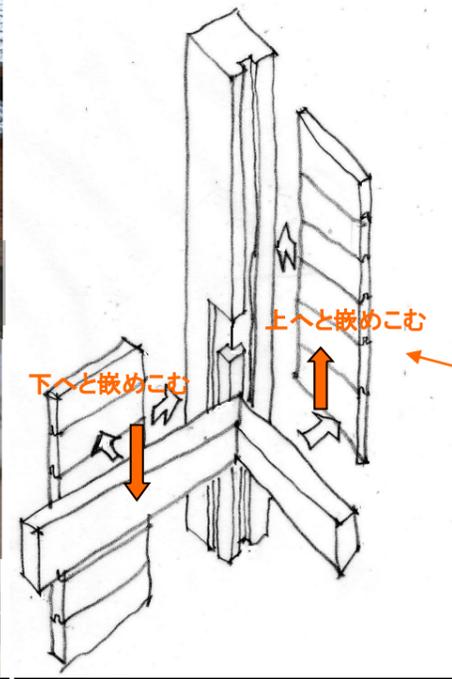
欄間上の連続するガラススリットがデザインの要



灯油、プロパンボンベ収納小屋



猫の飾り



上へと嵌めこむ

下へと嵌めこむ



コンクリートスラブに直接埋め込んだ三つのハーブミラーボウル

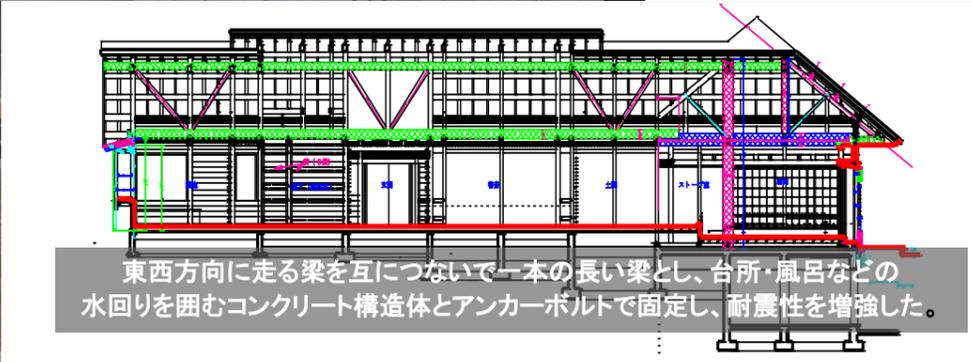


間違えて短く切ってしまった台所甲板、小部材を挟んで化粧とする

30mm厚の杉板を柱間に落とし込む場合、一般に板蔵造りといわれる工法は建前工事の時に上から落とし込むが、建前工事期間を短くして大工への支払経費を削減するため、柱の帯部分に嵌め込むための欠込みをして板を嵌めこみ、その柱の傷跡を水平な木の帯を回して化粧とする。



三つの大きな石を石捨て場から拾ってきて、間に小石を詰めてコンクリートで固めた靴脱石



東西方向に走る梁を互につないで一本の長い梁とし、台所・風呂などの水回りを囲むコンクリート構造体とアンカーボルトで固定し、耐震性を増強した。



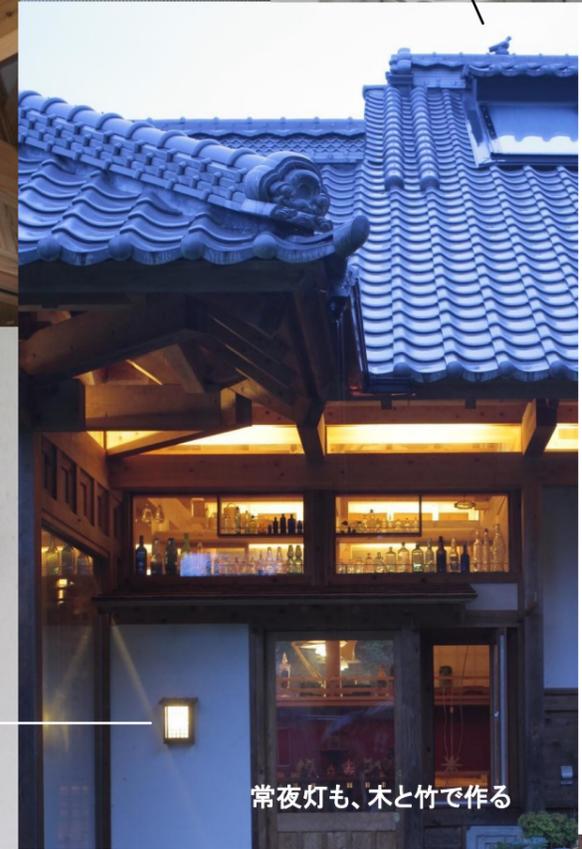
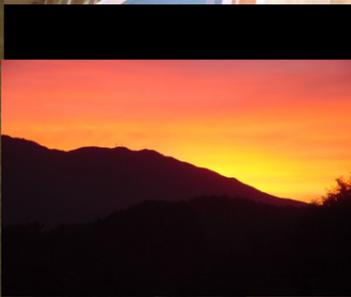
玄関軒下、六つの出し桁間の電球はできるだけ小さくしたいので、ステンレス製のジョウゴと豆電球を買って来て作った自家製電気器具



出し桁の先端に登り梁が掛かる構造なので、四段もの面戸板的な処理が必要になる



樽の電気器具を作る



常夜灯も、木と竹で作る



木の形をそのまま生かす



スライド・プロジェクターを居間のサイドテーブルの下に隠す



木レンガ(ヒノキ96mm角、60mm厚)を床に固定するため、30cm角のプラスチック製スノコに9個の木レンガをハメ込んでビスで裏止めし、そのスノコをつなぎ合わせて敷き詰め固定する。部分取り換えなどの修理可能。また、三つの靴脱ぎ用ケヤキブロックも同じように固定した。



洗濯機の両側を、化粧の物入れとする



小さな工夫の数々



八年にわたるセルフビルドの日々
・棟上げ以前・





材木の刻みは、すべてコンピューター入力のプレカット。ただし、一部の複雑加工はプレカット屋さんの大工さんをお願いした。



建前は、クレーン車を含めて大工さんに協力をお願いした。



毎年、宮城大学の先生と学生さんが仙台から来て、協力してくれました。



天井、垂木、断熱材、野路板、ルーフィングなどと仕上げていって、瓦は淡路島産で近在の瓦職人に依頼。



工事中の7年間、三カ月かけて自分たちで作ったこのビニール仮設小屋に住む



末口32cm、長さ11mの大きな棟木は足尾山に向かって



壁板のはめ込み、ラスボード下地、窓枠、サッシの釣り込みなどの造作工事は、主に美佐子が担当



オークションにて18万円で買った万能木工機は、実に重宝した。美佐子がカンナをかけている。



三間(5400mm)幅の大きな引違いガラス戸を釣るスギの横架材(450x90mm)を柱に取り付ける駿介。欄間には、純毛断熱材を入れた枠付き杉板パネルを組み込む。



造作工事のための各種ノミ。新品は買わず、すべて骨董市で仕入れる



ガスを除いた、電気、給排水、OM工事などの設備工事は、すべて駿介の独学工事



暇を見つけて、造園工事



宇都宮市の大谷で買ってきた大谷石を裁断して薪ストーブの下に敷く



農業用納屋や工作室の第二期工事に既に着工



完成した母屋の居間で、くつろぐ

八年にわたるセルフビルドの日々

・棟上げ以後・



二階展示室の飾り棚や建具、家具などの制作は、美佐子の担当

人間と環境

人間は、地球環境に対立的で破壊的な存在なのか、あるいは調和し、共存しえる存在なのか？

もし、共存しえる存在であるとしたら、なぜ今、破壊的な行為を続けるのか？

破壊的な行為を続けるということは、その行為を続ける理由があるはず。そして、

それはなにか心に傷があるからに違いない。心が穏やかであれば、自分の存在基盤そのものを痛めつける理由がない。

心が満たされないから、あるいは「精神的な不充足」が破壊行為の原因と思われる。

であるなら、なぜ、心が満たされないのか。なぜ心が穏やかでないのか？

それは、人を痛みつけているからに違いない、そして同時に、痛みつけられ、追い詰められて、みずからの環境を壊されずにはいられない状況にいるからに違いない。

そこで、「人類は生態的に一つであるのに、今、南北二つに分断されている(マーチン・コウ/マレーシアNGO)」という言葉思い出し、環境破壊の根本的な原因は南北問題にあると考える。途上国の人々は、物質的に窮乏し、追い詰められて自らの環境を破壊する。先進国の人々は、たとえ無意識にしても人を痛みつけることによる精神不安から際限のない物質消費へと走る。(フロイトのいう「無意識の抑圧」)

つまり、人の仲を裂くこと、平和を乱すことは、最大の環境破壊。人をいじめてはいけない、人を収奪してはならない。

それは、地球環境破壊なのだ。

人のために尽くすことこそ、環境保全！ 平和な社会を作ること、人と分け隔てなく接すること、これが最大の環境保全。

かつて、アマゾン先住民は「土地は分けてはならない、分割してはならない」といい、アメリカ先住民はヨーロッパからメイフラワー号でアメリカ東海岸に漂着した見知らぬ人々を、「必然にして、最初からの友人」、「生態的循環の友」として理解していた。

